

伊 建 設 号
平成20年10月10日

国 土 交 通 省 道 路 局 長 様

伊 達 市 長 菊 谷 秀



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別紙のとおり意見・提案を致しますので宜しくお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道 伊達市

○道路整備に係る採択要件の見直し

道路整備を行う採択要件に全国一律の費用対効果（B／C）が求められており、地方都市や山間部では地域住民にとって必要不可欠な道路であっても、補助採択が受けられない状況になっています。そこで、地域の特性にも配慮した採択基準の見直しが必要であると考えています。

○道路特定財源見直し後の道路整備方針

道路特定財源が一般財源化された後でも未整備路線が多いことから、従前にもまして道路財源の確保を要望いたします。

○マスコミに関して

道路整備予算のむだな使い方は反省すべきであると思いますが、マスコミ報道のあり方においても、道路行政全てが無駄であるかのような視聴者を洗脳させる報道が多々ありますが、このような報道に対し行政側は毅然とした態度で必要性を訴えていく説明責任があるのでないかと思っております。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１地域の現状と抱える課題

様式 ②

北海道 伊達市

○現状

- ・既存の歩道には幅員も狭く段差も大きい箇所が多々あり、高齢者や障害者等に配慮した歩道の整備が必要であります。
- ・有珠山は周期的に噴火し、そのたび国道等の主要な道路が不通となり住民の生活や非常時の人命の安全確保に不安を抱えています。
- ・老朽化した橋梁等の更新及び長寿命化対策が必要であります。
- ・道路の維持補修費が増大しており、財政的に支障を来しています。

○課題

- ・既存の歩道の段差解消や歩道幅を広げる必要があります。
- ・噴火の影響を最小限とする道路網の確保が必要です。
- ・今後、耐用年数に達する橋梁等の長寿命化対策や計画的な更新が必要であります。
- ・維持補修に対応する助成制度の確立が必要です。

②－２ 地域の目指す将来像

北海道 伊達市

平成 14 年には、予想される高齢化社会の到来に向け、高齢者が安心して暮らせる豊かな地域づくりを目指す「伊達ウエルシーランド構想」を策定し、官民協働により構想の実現に向けた取組を推進してきました。

平成 18 年 11 月には、この構想の大きな柱の一つであった郊外から市街地への高齢者の足を確保するライフモビリティの運行を開始しましたが、今年度からは更に、これと連動したタウンモビリティの研究に着手いたしました。

タウンモビリティとは、中心市街地に公共施設・病院・商店街・大型店等が集中する「コンパクトシティ」が形成されている本市の特性を活かし、中心市街地の数カ所にレンタルポイントを設け、高齢者や障害者へ電動スクーターや電動車椅子、電動自動車等を貸出すことで町中の移動を容易にするサポートサービスです。

実現に向けては法整備も含め広範囲な課題解決に向けた研究が求められますが、一層顕著となる高齢化社会にあって住みよいまちづくりを進めて行くには、新たな発想のもとでの道路の改良整備が不可欠と考えます。

以上の観点からも、引き続き道路整備事業は極めて重要な施策であり、その役割は一層増大するものです。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

北海道 伊達市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 合併市町村の 連絡道路整備	飛地合併である伊達市と旧大滝村のアクセス 路である一般国道 4 5 3 号の未改良区間延長 5 . 4 k m（蟠溪道路）の早期完成。	現国道は異常気象時に通行止となっており、 大滝区住民の日常生活や医療の広域化による 救急車の運行にも支障を来しています。この 改良工事の早期完成により大滝区住民が安心 して暮らせるようになると共にともに、車両 のスピードアップにより利便性の向上が図れ ます。	
・ 高齢化社会に 対応した歩道 整備	一般国道 4 5 3 号における国道 3 7 号交点か ら壮瞥町滝之町までの（長和町地内）歩道の 広幅員化による再整備。	国道歩道を 3 m 以上の広幅員でフラット歩道 として整備することにより、高齢者や幼児等 も安心して歩行できるようになり、健康増進 にも役立つと共に、住民同士のコミュニケー ションが活発となり地域が活性化されます。	
・ 噴火災害に対 応した道路整 備	道道滝之町伊達線を有珠山火砕サージェリア を避けたルートへ路線変更を行い、避難道路 としての早期整備。	平成 12 年 3 月の有珠山噴火時には国道 453 号 を初め本路線も通行止となり、住民生活に大 きな障害が出た上、旧大滝村との合併により 連絡道路として更に重要度が増しており、早 期の完成が待たれます。	